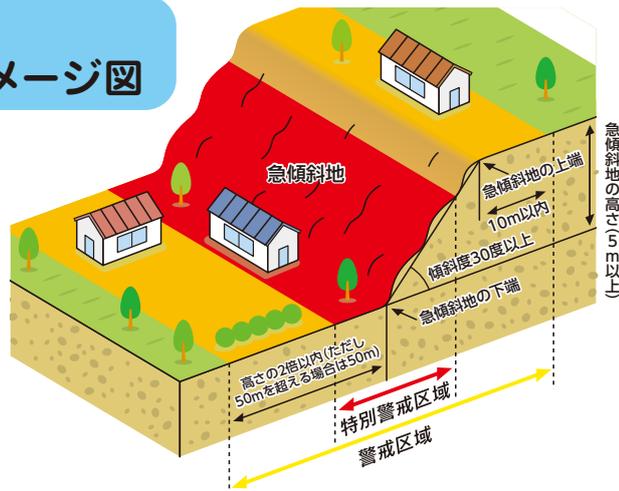


土砂災害

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)・土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)のイメージ図

● 土砂災害警戒区域を確認しておきましょう!

- 黄色の範囲(土砂災害警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域」です。
- 赤色の範囲(土砂災害特別警戒区域)は、「土砂災害が発生したとき建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれのある区域」です。

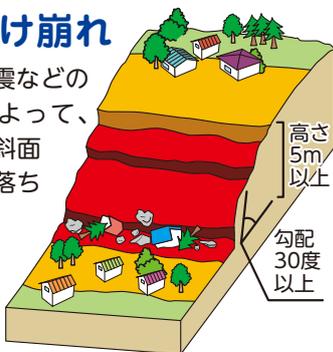


土砂災害の種類と前兆現象

■ 警戒区域 ■ 特別警戒区域

● がけ崩れ

雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。



このような前触れに注意

- がけから水がわき出ている。
- がけから小石がパラパラと落ちてくる。
- 地鳴りがする。
- がけにひび割れができる。

● 土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流される現象。



このような前触れに注意

- 山鳴りがする。
- 川の流れが濁り、流木が混ざり始める。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

● 地すべり

雨が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。



このような前触れに注意

- 地面にひび割れができる。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面から水がふき出す。

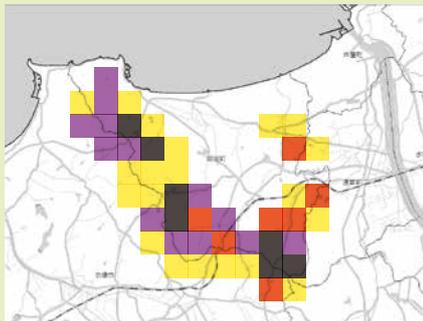
● 土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)



<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/zoom:13/lat:33.841905/lon:130.623407/colordepth:normal>

大雨警報(土砂災害)の危険度分布は、大雨による土砂災害発生危険度の高まりを、地図上で5段階に色分けして示す情報です。土砂災害警戒情報や大雨警報(土砂災害)等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

※ 表示イメージ



色が持つ意味	状況	住民等の行動の例 ^{*1}	内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報	相当する警戒レベル
災害切迫 大雨特別警報(土砂災害)の指標に用いる基準に実況で到達	命に危険が及び土砂災害が切迫。土砂災害がすでに発生している可能性が高い状況。	(立ち退き避難がかって危険な場合) 命の危険 直ちに身の安全を確保!	緊急安全確保^{*2}	5相当
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難!> ~~~~~				
<b>危険</b> 2時間先までに土砂災害警戒情報の基準に到達すると予想	命に危険が及び土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況。	土砂災害警戒区域等の外へ避難する。	<b>避難指示</b>	<b>4相当</b>
<b>警戒</b> 2時間先までに警戒基準に到達すると予想	土砂災害への警戒が必要な状況。	高齢者等は土砂災害警戒区域等の外へ避難する。高齢者等以外の方も、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自ら避難の判断をする。	<b>高齢者等避難</b>	<b>3相当</b>
<b>注意</b> 2時間先までに注意基準に到達すると予想	土砂災害への注意が必要な状況。	ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	<b>2相当</b>
<b>今後の情報等に留意</b>	—	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—

^{*1} 土砂キキクルに関わらず、自治体から避難情報が発令された場合には速やかに避難行動をとること。

^{*2} 災害が発生・切迫している状況を市町村が必ず把握することができるとは限らないこと等から、緊急安全確保は必ず発令される情報ではない。また、警戒レベル5相当情報が出たからといって、必ず緊急安全確保が発令されるわけではない。